

1 事業総括

平成28年4月に事業団設立の更生施設としてスタートした塩崎荘は、2年度目に入り、民設民営の特徴を生かした独創的、多角的な施設運営を更に充実させ、併設する江東区就労支援センター（就労準備支援事業）（以下「センター」という）とも連携を図りながら施設運営を進めてきた。地域に理解され根差した施設になるため、地域に貢献していくことも大切な使命であり、施設周辺住民のニーズも勘案した特色ある施設運営の取り組みを行ってきたところである。

新規開始の通所事業は、主として塩崎荘退所者を当事業に繋げ、地域生活の継続を支え続けている。

入退所実績としては、年間の入退所者数はともに113人となり、目標を17.7%超える実績であった。特人厚の理解を得て、直接申込による入所を大幅に増やすことができ、年度末においてはその在籍者数が60人となり約6割を占めるに至った。施設利用（居室稼働）率は年間平均で100.6%、月初日の在籍者数はすべての月において定員を上回ることができた。施設利用者の目的達成率は62.0%（通常枠65.5%、直接枠58.2%）となり、目標を上回った。

〔利用実績〕

(単位：人)

	年度累計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入所者数	113	9	11	10	12	9	7	10	8	17	7	9	4
退所者数	113	11	9	11	10	9	10	9	9	15	9	6	5
月末在籍数	平均102.4	101	103	102	104	104	101	102	101	103	101	104	103
28年度	平均92.9	43	70	89	100	101	103	103	101	103	99	100	103

〔退所理由〕

(単位：人)

	自活	居宅移管	入院除籍	他施設移管	任意退所	無断退所	命令退所	族等同居	帰郷・親	拘留除籍	死亡	促進 社会復帰	その他	合計
29年度	5	43	7	11	11	14	2	3	6	2	8	1	1	113
28年度	3	20	4	5	3	18	5	3	5	0	3	0	0	69

2 主要目標に対する成果

(1) 利用者がそれぞれの能力に合わせて就労をあきらめずに努力できる支援の充実

- 年間を通し提供できる所内作業（ファスナー作製等）が充実し、利用者のみならずセンター利用者の参加もあり、活気に満ち溢れた作業場となった。
- 無料職業紹介所の機能を活用し、5の方が就労に結び付いた。また、企業開拓に力を注ぎ、5社の協力を得ることができた。しかし、フルタイムの仕事が多くを占めたため、該当する利用者が少なかったことが今後の検討課題である。就労訓練事業においても目標の9人に遠く及ばず昨年と同じく1人のみの結果となったが、これは働くことができる利用者の減少が理由として挙げられる。

(2) 地域への移行と定着の推進

- 通所訪問事業は、開始時は5人から開始し年末には定員近くにまで達したが、年度末は満たすことができなかった。特に地元密着型を目指し、現在は江東区内の利用者が多数在籍している。所内作業の充実とともに通所利用者の来所も増え、地域定着の一翼を担うとともに、東京都のアフターケアについても5名の利用者を支援した。

(3) 地元根差した公益的な取り組みの実施

- 地域貢献の一環として地域の小学校を対象とした学習支援に取り組み、今年度は8月と3月の2回実施した。今後は定員を増やし、近隣小学校との連携を更に深め、より活発に取り組んでいきたい。また、小動物の飼育環境が整い、ミニチュアホースとヤギの飼育を開始したことで、子ども達も集う地元が開かれた施設にしていく。
- 直接申込による入所の知名度が上がり、入所依頼の増加が顕著に見受けられた。市部からの入所も積極的に受け入れ、今年度は6市（国立市、府中市、日野市、狛江市、調布市、武蔵野市）から計11名の新たな入所があった。

(4) 業務の標準化

- 入退所対応や利用者負担金等の一部業務をマニュアル化したことで、職員の事務等の負担が軽減し、新たな事業開始における円滑な業務遂行に繋がった。

3 運営管理

- ・支援方法や利用期間について、心理相談員のアセスメントも活用して利用者それぞれの実情を勘案した自立支援計画を策定し、適宜に見直しも加えながら、支援を行った。服薬や金銭管理など支援上の課題については、利用者との綿密な面接を行い合意を得て進めていくなど、利用者の視点に立ち信頼関係を保持していくことを常に念頭に置き、日々の支援に当たってきた。
- ・利用者に入所目的やモチベーションをしっかりと認識してもらうため、入所前の見学・説明を丁寧に行った。目的達成率が目標を超えたとは言え、無断・任意退所は多く、検討課題である。
- ・嘱託医による内科及び精神科の健康相談をそれぞれ週 1 回実施し、医療面における支援に当たった(通所事業利用者含め延べ 234 人受診)。また、9 月及び 3 月に定期健康診断(全員受診)を行い、利用者の健康管理とその意識向上を図った。
- ・給食は、引き続き新塩崎荘と同一の献立の食事を提供し、また、事情に応じて現金支給を行った。利用者アンケートを実施し(8 月：回収率 57%、1 月：同 75%)、献立作成などの参考とした。
- ・利用者の嗜好や食習慣に係る助言、治療食の要否確認や手配などのため、栄養相談を随時行った。
- ・自炊訓練の一環として、調理実習をセンターと共同で、通所事業利用者対象に 6 回、センター利用者対象に 8 回実施した。
- ・保健栄養教室を新塩崎荘と合同で 3 回実施した。保健相談所職員による「口腔衛生」「生活習慣病」「アルコールについて」の講話を実施し、計 51 人が参加した。
- ・消防訓練は、夜間火災や地震を想定した避難訓練の他、避難方法や消火設備に関する説明、消防署員による講話と消火・救命器具の使用方法的説明を行い、職員及び利用者の防災知識と意識の向上を図った。
- ・敷地内においてミニチュアホースとヤギの飼育を開始した。利用者の憩いと心の癒しの場となるとともに、近隣住民にも評判となっている。

4 保健衛生・環境整備

- ・感染症の予防の観点から、衛生用品(ペーパータオル、マスク、アルコール消毒液等)が自由に使える態勢をとるとともに、インフルエンザの予防接種(接種率 73.7%)を実施した。8 人がインフルエンザに罹患したが、利用者間感染及び他の感染症の発生は見られなかった。
- ・施設の安定的な運営による利用者の安心・安全な施設生活の提供、及び事業団財産を適正に管理していくため、設計業者への委託により、建物の中長期修繕計画を策定した。また、適宜、建物検査を実施し、不具合箇所の発見と迅速な修繕に努めた。

5 施設の社会化(地域交流事業及び施設機能強化推進事業)

- ・隣接する塩浜福祉プラザの利用者に対し、当所食堂において昼食を提供する給食サービス事業を 11 月に開始した。19 回実施し、大人 169 食、こども 44 食の喫食実績であった。
- ・センターと共同し、地域の小学生を対象とした学習支援事業を実施した。8 月と 3 月に計 10 日間実施し、延べ 47 人の子ども達が参加した。
- ・AA ミーティングの会場として作業室の提供を開始し、計 105 回の利用があった。
- ・社会福祉士取得のための実習生を 3 大学から 4 人受け入れ、実習に取り組んでもらった。

6 福祉サービス第三者評価 評価結果

評価機関：特定非営利活動法人 N P O サービス評価機構

実施期間：H29. 6. 1～H30. 2. 15

全体の講評：

特に良いと思う点

- ① 民設民営施設のメリットを最大限活かして柔軟に対応している。
- ② プライバシーに配慮し、利用者の自由度が高い生活を確保している。
- ③ 地域共生社会を目指し、地域の子どもや高齢者を対象とした学習支援や給食サービスなどを実施している。

さらなる改善が望まれる点

- ① 所内活動の一層の充実を期待したい。
- ② 利用者が社会の一員として生活できるよう、個別支援の更なる充実を期待したい。
- ③ 職員自ら気付き、行動できるような職員育成の更なる充実を期待する。

施設コメント：

・開設 2 年目で初めての調査であるが、利用者からの回答割合が 86.9% と多くの利用者からの意見聴取ができた。利用者アンケートの集計結果によれば、「生活のルールが適切か」、「プライバシー保護が確保されているか」などの項目ではいずれも 70% 以上の評価を得ている一方、金銭給付の割合を高めたことにより、主だった行事を実施しなかったことから「行事や活動」の項が低い評価となったため、経費の発生しない行事等を検討したい。